

かば桜学園だより

令和7年12月
かば桜学園発行
第2号

～北本市学校4・3・2制 小中一貫教育推進校～

「かば桜学園(西中・石戸小)」では、令和6年度から「伝え合う力を高めるための指導・支援の工夫」を研究主題に掲げ、研究に取り組んでいます。普段の学校生活の中で生かすだけではなく、夏季休業中に研修を行い、全職員が資質向上に取り組んでいます。

第2号では、二校合同の実践や小中それぞれの実践、児童生徒の交流・活動の様子を紹介します。

研究主題「伝え合う力を高めるための指導・支援の工夫」

〈副題〉

石戸小 国語科を軸にしたファシリテーションによる授業改善

西中 お互いの立場や考えを大切にしながら自らの言葉で適切にやり取りできる生徒の育成を目指して

【各学校のめざす児童生徒像】

石戸小 お互いの立場や考えを大切にしながら適切にやりとりできる児童

西中 お互いの立場や考えを大切にしながら自らの言葉で適切にやりとりできる生徒

～かば桜学園授業研究会～

9月19日に、小中学校の全教員が2校に分かれて各校の授業参観、研究協議を行いました。

石戸小学校 5年生:国語「たがいの立場を明確にして、話し合おう」

写真

「考えを広げる」、「考えをまとめる」など、目的に合わせた話し合い方について学んだことを生かし、自分たちで決めたテーマについて実際に話し合いました。お互いの意見を大切にしながらも、結論を出すために活発に意見や質問をする様子が見られました。

西中学校 3年生:特別活動「冷静に考える」

写真

学校行事に関連して、「相手の立場に立って考えること」や「相手のことを尊重して話をすること」について考え、「冷静に考える」ことはどのようなことかを、ロールプレイを交えながら学習し、伝え合うことについて学ぶ様子が見られました。

～小中学校合同研修会～

第2回小中合同研修では、文教大学教育学部 藤森裕治教授に「探求の学びをひらく」について講義をして頂きました。探求学習の過程（「課題の設定」、「整理・分析」、「まとめ・表現」）、探求の学びで身に付ける力など、私たちが目指す子供たちの姿や指導の在り方について、理論的に学ぶことができました。

写真

～石戸小学校の取組～

●かば桜学園授業研究会に向けて、指導案検討を行った。これまでの研究を基に研究主題にせまれるよう授業内での手立てを考えた。中学校の先生方とも考える機会を設けたことで、様々な視点で検討することができた。

●昨年度作成した、「国語科重点単元表」を細分化し、「指導目標編」と「学習活動編」を作成した。学年、学習時期(月)、指導目標、学習活動を表に示すことで、既習事項や、児童が経験している活動が分かるようにした。

写真

5年	「あつちの言葉」を学ぶ。自分が出す言葉が相手に伝わるように工夫する。【3～4人】	「あつちの言葉」を学ぶ。自分が出す言葉が相手に伝わるように工夫する。【3～4人】			2年	「あつちの言葉」を学ぶ。自分が出す言葉が相手に伝わるように工夫する。【3～4人】
6年	「あつちの言葉」を学ぶ。自分が出す言葉が相手に伝わるように工夫する。【3～4人】	「あつちの言葉」を学ぶ。自分が出す言葉が相手に伝わるように工夫する。【3～4人】			3年	「あつちの言葉」を学ぶ。自分が出す言葉が相手に伝わるように工夫する。【3～4人】

【国語科重点単元表(学習活動編)の一部】

～西中学校の取組～

●「伝え合い6か条」を意識した「伝えタイム」(話し合い活動)を各教科担当が学習活動に盛り込んで学習活動を展開している。「伝えタイム」の目的として、話し手は、要点を分かりやすく相手に伝えること。聞き手は、相手の伝えたいことを聞き取ろうとする態度を育むことをねらいとし、各教科だけでなく、帰りの会での「1分間スピーチ」にも展開している。

西中学校 伝え合い6か条

〈話し手として〉

- 一、相手の目を見て、話します。
- 一、相手に十分伝わる声で、話します。
- 一、相手に伝わる言葉を選んで、話します。

〈聞き手として〉

- 一、話し手におへそをむけて、聞きます。
- 一、話を途中でさえぎらず、最後まで聞きます。
- 一、相手の立場や状況を考えて、話を聞きます。

写真